九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

日露戦後期の日英合弁電力会社構想 : 日英水力電気 (株)をめぐって

橘川, 武郎 青山学院大学経済学部

https://doi.org/10.15017/13711

出版情報:エネルギー史研究: 石炭を中心として. 12, pp.46-65, 1983-06-30. 九州大学石炭研究資料

センター バージョン: 権利関係:



日 露戦後期の日英合弁電力会社構 想

日英水力電気 (株)をめぐって

橘

III

武

郎

三 = 英国中心の出資案 日英折半出資案 発

五 鬼怒川水力電気との合同案 英国主導の大規模親会社設立案

おわりに

破綻と事後処理

はじ めに

屋電灯•横浜共同電灯 中心的に担ったのは東京電灯・大阪電灯・京都電灯・神戸電灯・名古 ひとつであったが、 端から一〇年の破綻にいたる経緯を明らかにすることにある。 設立をめざした日英水力電気 戦前期を通じて電力業は日本の経済発展を支えた重要な産業部門の 本稿の課題は、 インダストリーとして機能した(1)。 日露戦後期に日英共同出資による大規模電力会社の 中でも日露戦後期と一九二〇年代にはリーディン ・広島電灯等の一八八〇~九〇年代に設立され (株) の構想について、一九〇六年の発 日露戦後期の電力業の展開を

> 力電気会社があいついで新設された。 怒川水電・猪苗代水電・桂川電力・上毛水電・九州水電等の有力な水 た大都市の電灯会社であったが、 同時にこの時期には宇治川電気・鬼

を取り上げる理由であるる。 富化させる上で有意義であろう。 は実現にいたらなかったとはいえ、このような特徴をもった日英水力 術的にも世界有数の内容をもっていたこと、がそれである。結果的に 上回る大規模なものだったこと、 電気の構想を検討することは、 英同盟の経済版」として日本の政財界の有力者が強力に後押ししたこ 特徴が存在した。①日本と英国の共同出資の形をとったこと、②「日 めざされたが、同社の構想には他社の場合には見られない次のような 日英水力電気もそのような新設水力電気会社のひとつとして設立が ③当時日本で最大の電力会社であった東京電灯を資本規模の点で 日本の電力業発達史に関する研究を豊 ④高さ三〇〇尺(2の堰堤の築造等技 これが、 本稿であえて日英水力電気

発 端

成立(〇五年八月)から半年を経た〇六年二月にスタートした。日本 側の主要な発起人は、もと横浜正金銀行頭取で当時十五銀行頭取であ 日 英共同出資による水力電気会社設立の構想は、 第二次日英同盟の

う、という目論見であった(6)」と記述されている。 の中心的な意義があると考えていた(5。例えば『樺山愛輔翁』には、「日英両同盟国に於ける経済的連鎖を固く(4)」する点にこの構想は、「日英両同盟国に於ける経済的連鎖を固く(4)」する点にこの構想は、「日英両同盟国に於ける経済的連鎖を固く(4)」する点にこの構想が、という目論見であったが、彼らった園田孝吉をはじめとして副島道正・樺山愛輔らであったが、彼らった園田孝吉をはじめとして副島道正・樺山愛輔らであったが、彼ら

)11 圏内の利根川・鬼怒川・大井川・天竜川筋の水力発電地点を比較調査 ことになった。 流域変更の問題、 利権の獲得がめざされた。 大井川水力電気事業(株)、 の三地点が候補地とされ、 る(7) 英国側の発起人は、米国人の水利技師(8)ハウルスを日本に派遣 力利用に関する静岡県知事の許可を得ることができた句。ととになった。残りの②・③については、〇六年一二月二八日に、 しては、①上流の田代川、 した結果、大井川筋が最適との結論を得た(9)。大井川筋の開発地点と の上流早川に切り落とすという難工事であったため、「土地の不便、 構想のスタートにあたって、 ハウルスは、東京から一五〇マイル(約二四〇キロメートル) 竣功期限の関係等に依りの」開発計画が凍結される それぞれ①田代川水力電気事業 しかし、 ②安倍郡井川村、③榛原郡上川根村奥泉、 ③静岡水力電気事業(株)、の名義で水 「ホワイト商会外二三の資本家より成 ①については、田代川の水を富士 (株)、② 水

二、日英折半出資案

が結成した神戸シンジケート(甲)、日本側は園田(乙)であった。「契約書」を締結した心。契約の当事者は、英国側はホワイト商会等計画の具体化にともない日英双方の発起人は、〇七年七月九日に

ある。やや長くなるが、「契約書」の主要部分を引用すると、以下の通りで

す(3)」 して行動すべきことを協定したるを以て玆に左の通り約定するものととを希望し而して甲乙は該目的の為めに左に記載する方法を以て共同に使用し且つ該電力を分配販売すべき特許を出願して之を取得するこに使用し且つ該電力を利用し該水力の全部又は一部を水力電気発生高文「……甲乙は東京大阪又は其隣接地方に送電し得べき距離に在

第六項 | 本契約に従ひ甲乙に於て取得したる各特許は甲乙両者に於て

平等なる割合を以て共有するべきものとす即ち其特許権の二分の一は日本によるといて共和のの一方が右資本又は社債の全部又は一部を引受くることを欲せざるとき約款及び方法に依りて之が発展を謀るに在りは、一方が右資本又は社債の全部又は一部を引受くることを欲せざるとものこ分の一を各自引受くるの権利を有するものとす而して当事者の意思は右の甲に属し他の二分一は乙に属するものとす即ち其特許権の二分の一は平等なる割合を以て共有するべきものとす即ち其特許権の二分の一は平等なる割合を以て共有するべきものとす即ち其特許権の二分の一は

共同(株)と子会社である日英水力電気の二社を設立しば、 を設立(4)するという案がまとめられた。それは、親会社である日 られ、○七年一○月頃には「英国商慣習に依り、 この段取りに沿って、 に譲渡して、日英水力電気が水力発電事業を行うことになっていた。 気事業・静岡水力電気事業から継承した水利権を新設の日英水力電気 田代川水力電気事業・大井川水力電気事業・静岡水力電気事業の三社 係を第1表のようにしようという案であった。具体的段取りとしては は甲乙は其最良の処分方法に付き協議決定するものとすば を合併して日英共同 この「契約書」の第六項にもとづき水力電気会社の設立準備が進 (株) 三社合併にともなう「会社名変更願」 を設立し、 日英共同 (株) が大井川水力電 所謂親会社なるもの が〇八年 両社の関

日英共同株式会社

- (1) 当会社は、水利権・土地・山林・鉱業権・其他各種の財産を取得・開発・運用・販売・貸借及処分し、且つ各種の機械器具・其他の物件を製造・取得・販売・貸借及処分し、且つ各種の工場を施設し、其他右の業務又は一部分を執行する為め必要便宜又は利益なる一切の事項及業務を執行するを以て目的とす。
- (2) 当会社は株式組織とし、資本総額を100万円 とし、之を2万株に分ち、1 株の金額を50 円と す。
- (3) 当会社は日英共同事業にして、全資本の一半は之を英国に於て他の一半は之を日本に於て募集するものとす。
- (4) 当会社は其獲得したる静岡県下大井川筋に於ける水利使用権を日英水力電気株式会社に譲渡したるを以て、其報償として該会社か其資本に対し年8分の利益配当をなし、尚剰余ある時に其10分の4を該会社より受取るものとす。
- ▷ 収支予算(単位千円)
 - 〈日英水力電気第1期工事竣工後〉 総収入 78.8 総支出 35.72 差引利益金 43.08 うち法定積立金 2.154 役員賞与及交際費 2.154 配当金 38.772 (年3.9%)
 - 〈日英水力電気第2期工事竣工後〉 総収入 569 総支出 112.72 差引利益金 456.28 うち法定積立金 22.814 役員賞与及交際費 23 配当金 380(年38%) 繰越金 30.466

日英水力電気株式会社

- (1) 当会社は日英共同株式会社か静岡県下大井川 筋において獲得せし水利使用権を特別契約の下 に譲り受け、該水力を以て電気を発生せしめ、 之を東京府下に遠送し、電力供給其他之に関聯 する事業を営むを以て目的とす。
- (2) 当会社は株式組織にして資本総額を1,250万円とし、之を25万株に分ち、1株の金額を50円とす。
- (3) 当会社は日英共同の事業にして、全資本の一 半は之を英国に於て他の一半は之を日本に於て 募集するものとす。
- (4) 当会社は第一期工事を竣りたる後直に外債500 万円を募集し、之を以て拡張工事費に充つるも のとす。
- (5) 当会社の設計は既往2年に亙り内外技術者か 精細なる踏査研究の結果之を作成せしものにし て、極めて完全なるものなり。
- (6) 当会社の工事費及収支予算は確実を主とし充分の余裕を見込み立案せるものなるを以て、他日実際の計数は工事費及収支予算の各項目共予算に超過せさるを信す。
- (7) …略
- ▷ 収支予算(単位千円)
 - 〈第1期工事竣工後〉…3万馬力まで販売可能 総収入 1,680 総支出 420 差引利益金 1,260
 - うち法定積立金63 役員賞与及交際費63 第1配当金1,000(年8%) 第2配当金 55.2(年0.4%) 日英共同㈱へ支払う分78.8
 - 〈第2期工事竣工後〉…6万馬力まで販売可能 総収入 3,555 総支出1,005 差引利益金 2,550 うち法定積立金127.5役員賞与及

交際費127.5

第1配当金1,000(年8%) 第2配当金726(年5.8%) 日英共同㈱へ支払う分569

(出典) 「日英水力株式募集」(『中外商業新報』1908年7月11日付)

六月八日に、 れた (16) 水利権譲渡願」 が〇八年六月二七日に、それぞれ

られた(21)。 契約が整った(19)。 新宿町・ 水に妨害をなさざることの」、 と進展した。〇七年一二月六日に 一可がおり20、 た。 力を供給すべきことの」等を条件として、 七年末から〇八 〇八年五月までには、 淀橋町 東京市・ そして、 中 野町) 年 前半に 荏原郡 〇八年七月一〇日には、 東京鉄道に対する二万馬力の電力供給すを条件として、内務省の認可書が交付さ おける五〇馬力以上の電力供給権が認 か 「発電の上 け (品川 は、 て、 町・目黒村)・ 日 灌漑流木其の他沿岸住民の は直に静岡市内に低価を以 英水力電 気の 逓信省の会社設 豊多摩郡 事 業計 画 は (内藤 着

ランは、 作成された。 水利権を利用して六万馬力の電力を得るプラン(なまとめた。 と検討を重ねた結果、 電 接阻峡に築造するという、 力の供給先 当時世界最高の二六五尺はを上回る高さ三〇〇尺の堰堤を井 〇八年春に来日した米国人技師スカイラーは、 が明 確化したことと並行して、 同年五月に、 特筆すべき内容を含んでいた。 大井川水力電気事業の有していた 具体的な発電プラン ハウ このプ ル

大倉喜八郎・益田孝 井上馨の両元老は、発起人の拡充に積極的に協力した。例えば渋沢栄 英同盟の経済版」という点で日英水力電気構想に共感した松方正義 た会社設立協議会のに松方・井上の勧誘により出席してい 事 創 立費を出資した日本側の発起人は二九名にのぼった。さらに、 業計画の具体化にともない、 〇八年六月五日に京浜地区の実業家を招いて三井集会所で開 こうして 日英水力電気の設立構想は、 第2表にあるように、 一井八郎右 衛門 ·早川千吉郎 鍋島直 日英共同 日本側の発起人は拡充された。 ·添田寿 大・松尾臣善・高橋是清・近藤廉平 一らも (株)・日英水力電気両社 財閥代表者・大企業経 、賛成人として名を連 発起人に 日日 岩 か

営者

重なる富豪の賛助を得め」ることになっ

金融機関関係者・地元静岡県の有力者らを含む

「我国に

ij

崎 0 加

開かれた図。

両総会は、

論見書・趣意書の原案が作成され、同月二七日には両社の発起人総会が

創立委員を選出するとともに図い

株式募集の段取

〇八年六月一〇日には日英共同 (株)・日英水力電気両

社の定款

ŋ

を決定した。

この時点では先述した「契約書」

」の第七項

前段にもとづ

日本での発行株数は

き日英の出資比率は一対一とされていたため、

第2表 日英共同 ㈱・ 日英水力電気両社の創立費を出資

した発	起人一覧		(単位:円)
発 起 人	出資額	発 起 人	出資額
書 の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	23,700 22,700 8,100 8,100 8,000 5,400 5,400 4,500 2,700 2,700 2,700 2,500 2,500	大岸中秋小毛久磯大益宮殿小海田 村山林利野野谷田崎岡野野里石田崎岡野野田田 村山林利野野谷田崎岡野野里石工一兵衛 原右五昌新嘉太久幸金孝田郎郎郎衛門郎一蔵衛郎郎郎六郎	1,500 1,500 1,500 1,500 1,500 1,350 1,000 1,000 1,000 1,000 500 500
白杉政愛	1,500	<u>合</u> 計	121,250

(出典)『日英水力電気株式会社記録』

(注) △は特別関係者。

の株式一〇〇株に対して日英共同(株)の株式八株を交付することにとになったが、日英共同(株)の株式は直接募集せず、日英水力電気つき二五円、日英水力電気は一株につき一二円五〇銭)を徴収するこき二円五〇銭)、八月二〇日までに第一回払込金(日英共同は一株につま参照)。日程的には七月三一日までに証拠金(両社とも一株につ英共同(株)が一万株、日英水力電気が二:二万五〇〇〇 株であった(第

なった。

□に。 五万四六九三株の未定株式が生じて第一回払込は延期されることにない金融逼迫が生じていた。日英水力電気の株式の証拠金が徴収されたい金融逼迫が生じていた。日英水力電気の株式の証拠金が徴収された引き続き高水準を維持していた。そのため、日英水力電気の日本での発引き続き高水準を維持していた。子のため、日英水力電気の日本での発引き続き高水準を維持していた。日英水力電気の株式の証拠金が徴収されたい金融逼迫が生じていた。日英水力電気の株式の証拠金が徴収されたのである。 五万四六九三株の未定株式が生じて第一回払込は延期されることになる。 しかし、日英水力電気の株式募集に関する○八年六月二七日の発起した。

は日本の場合とは異なっていた。八月には金融緩慢が生じていたのであり、株式募集が中止された事情が30、結局 は行われな かった。ただし、英国の場合には〇八年七・|英国での株式募集も、当初は日本のそれと同じ時期に予定されていた

設立される会社であるから、 0 会社設立と株式募集に関する日本の法律について全くと言ってい 商法にもとづき、 〇八年六月から九月にかけて渡英した、 知であった。 帰国 後の報告によれば、 日英共同 事前に株式を引受済みとしその (株)・日英水力電気両社はともに日 会社設立の登記を行うためには、 英国側発起人の神戸シンジケート 日 本側発起人の法律顧問岸 四分の一以上を払 日本 いほ 本で は

ことは不可能になった(岸のロンドン到着は六月二五日)(3)。 た準備を進めていたため、〇八年七・八月に 英国 で株式 募集を 行うした岸の説明で解消したが、神戸シンジケートが英国流の方式に則し日本でも通用するものと固く信じこんでいた。この点での誤解は渡英の関連諸税を納入した上で会社設立の登記を 行う、英国流の方式がず発起人が一〇分の一程度の株式を引き受け、重役を選任し登録税等ず発起人が一〇分の一程度の株式を引き受け、重役を選任し登録税等

術者の反対であった。る要因も存在した。それは、高さ三〇〇尺の堰堤築造に対する両国技は異なっていた。しかし、同時に、株式募集を制約した両国に共通すとのように株式募集が中止された直接的な事情は、日本と英国とで

与えなかった。 見を求めたるに、 年一二月にいたっても、 を連名で公表し、その中で「堰堤の高さを直立三百尺としたるは 堰堤崩壊による被害を危惧した大井川下流沿岸の住民が反対運動を起 いう状況であった。 て同意すること能はずは」との判断を下した。 秀三郎の両博士は、同年八月に『大井川水力電気の計画に関する意見も こした。 日本では、〇八年五月に日英水力電気の発電プランが発表されると、 意見を問われた当時の土木工学の最高権威者古市公威・中山 また、 婉曲なる辞を以て比堰堤工 英国でも、 日英水力電気の堰堤築造計画に対して許可 「英国側資本家も同国権威者の意 法に賛意を表せずる」と このため内務省は、 断じ 同

たった(88) 止するの止むなしぬ」との結論に到達した。 〇九年一月には、ついに『東洋経済新報』が計画中止を報道する |月二三日に政財界の協力者を交えた会合を開いた結果、 (株)・日英水力電気両社の設立計画を遂行することは困難になった。 株式募集の失敗と堰堤築造に対する技術者の反対により、 日本側発起人は、 いったんこの報道を否定したが 日本側発起人の計 (39) 事業を中 日 :画中止 5英共同 同年 にい

二、英国中心の出資室

ر ح あった。 従来の日英折半出資案に代わって、先述した「契約書」の第七項後段 中で神戸シンジケートは、 確実なるに於ては之に増築を施す 😢 」方式を採用しようというもので を取り除くために、 というものであった。 にもとづき、日英水力電気の全株式の約五分の四を英国で発行しよう 募集すること、 得て英国で日英水力電気の株式を一〇〇万ポンド(一〇〇〇万円弱) 計画をあくまで遂行する立場から、①興銀および在ロンドンの三銀行 シンジケートは、 (パース銀行・香港上海銀行・横浜正金銀行ロンドン支店)の協力を 本側発起人から計画中止決定の通知を受けた英国側発起人の神戸 の2点を主要な内容とする新提案を行った頃。このうち①は、 ②堰堤の設計を根本的に改めその高さを四〇尺とする 即座に中止決定の撤回を求める返電を打った。 「堰堤の高を低く四十尺とし之にて安全なること また②は、堰堤築造に対する両国技術者の反対 日英共同(株)・日英水力電気両社の設立 その

三月一日の発起人総会では、「日英共同事業に関する水力電気株式会に沿って、日本での株式募集規模を大幅に縮小する新提案が示された以びって、日本での株式募集規模を大幅に縮小する新提案が示された以の中止決定は、「今日我財界の不振は引受けの残株を募集すること到の中止決定は、「今日我財界の不振は引受けの残株を募集すること到の中止決定は、「今日我財界の不振は引受けの残株を募集すること到の中止決定は、「今日我財界の不振は引受けの残株を募集すること到の中止決定は、「令日我財界の不振は引受けの残株を募集すること到の中止決定を取り消し、新提案変化ありたる(4)との認識に立って計画中止決定を取り消し、新提案をの発起人総会が開かれた(4)。席上日本側発起人は、「形勢に非常の気の発起人総会が開かれた(4)。席上日本側発起人は、「形勢に非常の気の発起人総会が開かれた(4)。

る)。

なの引受残株を英国で発行するという、婉曲的表現が用いられていは日本側に於て引受けたる残額を英国側に於て募集充当し会社の成立は日本側に於て引受けたる残額を英国側に於て募集充当し会社の成立については、従来の日英折半出資案に代わって、英国中心の出資案にについては、従来の日英折半出資案に代わって、英国中心の出資案にたっての引受残株を英国で発行するという、婉曲的表現が用いられている)。

れた。 懸念を取り除く役割をはたした。その結果、 **懸念する声が強かった伽。神戸シンジケートの新提案は、** 力電気両社の設立計画に対する政府関係者の支援は、 トと三銀行との関係は緊密とは言えず、政府関係者の間ではこの点を 英貨外債発行に深く関与していた。ところが従来は、 の三銀行は、いずれも一八九九年の第一回四分利英貨公債以来日本の あるように、パース銀行・香港上海銀行・横浜正金銀行ロンドン支店 方針を打ち出したことは、 神戸シンジケートが新提案の中で在ロンドン三銀行の協力を求める 日本の政府関係者に歓迎された。 日英共同 神戸シンジケー 従来より強化さ (株)・ このような 第3表に 日英水

槻礼次郎、日銀副総裁兼横浜正金銀行頭取の高橋是清、 と呼びかけた。次いで小村・若槻が くは諸君の尽力により茲に経済上同盟の端緒を開くことを切望す@∫ 同盟の経済版」としての日英水力電気の重要性を強調し、出席者に「願 一二名であった。 孝吉・朝吹英二・副島道正・樺山愛輔、賛成人の近藤廉平・益田孝の 相の桂、 賛成人の中心メンバーとの協議会が開かれた@。 一九〇九年三月一四日には桂太郎邸で、政界有力者と日本側発起人 元老の松方正義・ 協議会では冒頭、 井上馨、 議長役をつとめた井上が、 外相の小村寿太郎、 「協同事業は至極結構の 出席者は、 発起人の園田 大蔵次官の若 首相兼蔵 」との立 「日英

第3表 金本位制実施以後第1次大戦以前の日本の英貨外債とパース銀行・香港上海銀行・横浜正金 銀行ロンドン支店の関与

種別	発行年	外 債 名 称	3 銀行の関与	引受会社(引)、仲介者(仲)、 主周旋人(周)
围	1899	第1回4分利英貨公債	募集取扱銀行	(引)パンミユア・ゴルドン商会
	1904	第1回6分利 "	"	(引) //
	04	第2回6分利 "	<i>"</i>	(引) //
	05	第1回4分半利 "	"	(引) //
	05	第2回4分半利 "	"	(引) //
	05	第2回4分利 "	引 受 会 社	(引) 3銀行とロンドン・ロスチャイル
	07	5 分 利 "	"	(引) ル ド商会
	10	第3回4分利 "	"	(引)3銀行
	13	第1回英貨鉄道証券	私募の後援	(周)パンミュア・ゴルドン商会
債	13	英貨鉄道債券	"	(周) "
	14	第2回英貨鉄道証券	"	(周) "
	15	第3回 " (甲)	"	(周) "
	15	第3回 " (乙)	"	(周) "
	1906	東京市 5 分利事業公債	募集取扱銀行	(引)日本興業銀行
地	07	横浜市5分利 "	関与せず	(引) サミユール・サミユール商会
	09	横浜市 6 分利ガス 〃	引受会社*	(引) 香港上海銀行
方	09	大阪市電気軌道及水道 "	募集取扱銀行	(引)日本興業銀行
	0.9	名古屋市 5 分利英貨公債	関与せず	(引)セール・フレザー商会
債	0.9	横浜市第2回水道公債	募集取扱銀行	(引)日本興業銀行
	12	東京市 5 分利電気事業公債	"	(引) //
	12	横浜市第2回ガス 〃	関与せず	(引) セール・フレザー商会
社	06	北海道炭砿鉄道英貨社債	関与せず	(引) チャータード銀行
	06	関西鉄道 "	"	(引) M・サミユール商会
	07	第1回南満州鉄道社債	募集取扱銀行	(引)日本興業銀行
	08	第2回 //	"	(引)パンミユア・ゴルドン商会
債	08	第13回日本興業銀行債券	<i>"</i>	(仲) //
	08	第3回南満州鉄道社債	"	 (引) 日本興業銀行
	11	第4回 "	"	(引) //
<u></u>	<u> </u>			

(出典)日本興業銀行外事部『日本外債小史』(1948年)、日本銀行外債局『外債関係資料集第4集』 (1962年)

- (注) 1. 引受会社は英国での発行分のみを掲載。
 - 2. *は、パース銀行・横浜正金銀行ロンドン支店は関与せず。
 - 3. パンミユア・ゴルドン商会は、興銀のロンドンでの代理店。

押しは、この協議会でピークに達したと言うことができよう。助を与うべし⑸」と締めくくった。会社設立に対する政界有力者の後場から発言し、最後に桂が「今日以後は一層熱誠を以って本事業の援

横浜正金銀行経由で送金すること(第九項)。などの諸点であった侭な本の法律にもとづいて行なうこと(第六項)。英国での株式払込金は 三項)。会社設立の交渉のため園田創立委員長のが渡英し、その間渋し、日英のどちらかで引受残株が生じた時は善後策を講ずること(第 致するものであった。そのことは、 計変更にともない内外技術者の調査を再び行ない、再調査完了まで会 は、 を負うことは危険だと考えていた⑮。 は発行銀行たることを拒絶せり。 との点は、 ン三銀行が共同で発行銀行となる方式を採用したことである(第一項)。 ロンドン三銀行が募集業務を代行する方式を排除し、 力電気の英国での株式発行に関して、 議第三項の但書きが插入されたことからも、窺い知ることができる。 を強く主張したにもかかわらず、事実上英国中心の出資に道を開く決 この決議は、 沢栄一が委員長代理をつとめること(第五項)。会社設立の手続は日 社設立を延期すること(第二項)。 わたる決議案を採択した。 た水力発電事業(気について、 協議会は、日英水力電気設立の具体的段取りについて、一〇項目に 記された。 行と共に同 興銀と在ロンドン三銀行が共同で責任をもつこと(第 かし、ここで見落すことができない点は、 協議会の結論を英国に知らせる電文の中でも、「興業銀行 〇九年二月の神戸シンジケートの新提案に基本的には合 興銀は、当時まだ十分に社会的信用を勝ち得ていなかっ 一の条件の下に発行者たることは妨なしょしという形で 決議の要点は、英国での株式発行に関して 単独で英国の株主に対する徳義上の責任 然れどもパース銀行香上銀行及正金 協議会の席上井上が日英折半出資 日英折半出資が望ましいが、 興銀が単独で発行銀行となり在 協議会の決定は、 協議会の決議が日英水 興銀と在ロンド このような興 項) ただ 設

銀の意向を反映したものであった。

なき(58)」という点にあった。 理由は、日英水力電気のような「新事業の為に発行銀行となるは前例 ろが、会見の席上パース銀行の代表は、 となる方式が実現するだろうとの楽観的見方が支配的であった。 で日本側関係者の間では、 け出発した。園田がロンドンでパース銀行の代表(シャンド ン三銀行が発行銀行となることはできない、と園田に返答した。 ォーレー)と会見したのは、 큋 田は、 協議会の決議の第五項にもとづき、〇九年三月に英国 興銀と在ロンドン三銀行が共同で発行銀行 同年五月一〇日であった何。 いかなる形態であれ在ロンド この 時点ま およびウ その ځ

沢は、 確認した上で、 表の拒絶回答は、 はなくなった。 沢創立委員長代理に伝えられた。 力電気の設立計画は、 シンジケートの新提案に端を発した、 行銀行に加わることを拒絶したため、英国で日英水力電 一〇〇万ポンド募集する構想は暗礁に乗り上げた。〇九年二月の神戸 興銀が単独で発行銀行となることを拒否し、 従来のように積極的に日英水力電気の設立計画に関与すること 渋沢は、 同年六月六日に日英水力電気の創立委員を辞任した(8) 同年五月一三日付の電報で、園田から日本に このようにあっけなく破綻した。 パース銀行代 園田が英国を離れて帰国 英国中心の出資案が破綻して以降渋 英国中心の出資案による日英水 在ロンドンコ の途についたことを 気の 銀 株 いる渋 行

四、英国主導の大規模親会社設立案

中心の出資案による日英水力電気の設立計画が破綻した場合の代案を、していた。そのため神戸シンジケートは、園田の訪英に際して、英国なり、〇九年五月一〇日のパース銀行代表の拒絶回答をある程度予測ロンドンの事情に詳しい神戸シンジケートは、日本側関係者とは異

れた命。その主要な内容は、D1g。-の二度にわたって神戸シンジケートからロンドン滞在中の園田にの二度にわたって神戸シンジケートからロンドン滞在中の園田に のに対して、二一 二五〇〇万ドル ユニオンシンジケートとしてい 本額・社債の発行額)・新シンジケート名等の点で若干食い違っ が、親会社の設立地 などであった。一二日の提案と二一日の提案は大筋では ンのブローカーのスパーリング商会を中心とする新シンジケートが発 わりに 行引受すること。 電 いしカナダで資本額と同額の社債を発行し⑹、その手取金を日 とすること。③日本で設立する子会社の日英水力電気は、親会社と同 金二四〇〇万円、払込資本金 事 の資本規模とし、親会社の全額出資とすること。④親会社は英国な は、 気の工事資金に充当すること。 前 具体的には、それぞれの点について、 報酬として一定額の親会社の払込済みの株式を受け取ること。 当時日本で最大の電力会社であった東京電灯のそれ 英国ないしカナダで親会社を設立すること。 その主要な内容は、①日英共同(株)の設立を取りやめ、 意してい (五〇〇〇万円強)・イースタンシンジケートとした 日 ⑥日本側発起人・神戸シンジケート・ の提案は英国・三〇〇万ポンド(三〇〇〇万円弱) (社債の発行地)・ 一七二六万円) ⑤親会社の社債については、 親会社の資本額 一二日の提案がカナダ を上回る、 五月一二日と二一日 ②親会社の資本規 新シンジケー 大規模なもの (子会社の資 致していた (公称資本 ロンド **L**英水力 てい .示さ か

日

出アリタル 日付 案内容が修正されたこと。 ルニハ一驚ヲ喫 立するという案を示された時には、 資本金三〇〇万ポンドの親会社を英国で設立するというように提 田 は、 渋沢あての電報の中でも、 モ承諾出来難シ(63)と述べた。 五月一二日に資本金二五〇〇万ドルの親会社をカナダで設 ハセサル ヲ得ス (62) との感想をもった。 ②調査の結果、 一神戸 「実ニ此案ノ突飛ニシテ無責任ナ 「シンヂゲート」ョリ スパーリング商会がロンド しかし、その後、 そして、 1 翌一三 新案提 二日

ベ

「提案ハ唯一ノ実行方法ナリト考フ⑮」と述べるにいたロンドン出発の直前の五月二五日に副島あてに打った電 より水力電気事業を成功させていることが判明したこと(4)。 ンでも有力なブロ て第二の新提案に対する園田の考え方は変化した。その結果園田 1 カーであ ŋ メキシコやブラジルで同 たった。 報 の などに 单 の 方式 で は

代表を日 府者は寧ろ法律を改正して迄も便宜を与うべし(8) 述べ、 して、 具体的段取りにまで立ち入る決定がなされ 対する政界有力者の後押しは、 もとづき、 ち英国人が其植民地又は南米等に於て実行しつゝある方法を我国に 国で設立するという案については賛否両論が相拮抗した。 や 協議会は、 用する事を許すや否や…… が必要であると主張した。 は反対した。桂・後藤は両者の中間的な立場をとり、当面 意見が多数を占めたが、その具体的段取りとして大規模な親会社を英 続いて行われた討論では、 交渉経過を報告し、三月の協議会の決議が実現にいたらなかった事情 渋沢、岸(清一)の の協議会に出席した一一名 ħ 本側発起人・賛成人との協議会が開かれた(66) 園田が帰国した直後の〇九年七月七日、 ば後退したと言うことができよう。 神戸シンジケートが示した第二の新提案の内容などを説明し その上で「此方法にして有益にして害なき事明かなるときは 政界有力者の中で松方・井上・小村は賛成したが、 本に 第二の新提案に対する態度を保留 「此際は猶慎重を要するの時機なり(8) 招請することだけ 四名であった。 例えば桂は、 (近藤は欠席)に加えて、 (中略) …… 日英水力電気の設立自体については賛成 りを決定した心。 この協議会でも引き続き存在したが、 協議会ではまず園田 は聊研究問題 「我国が此種の会社 た三 再び桂邸で、 一月の協議会の場合に比 日 ス 英水· 出席者は、 という桂の意見に と発言した。 パ ぬに属せり(67) 逓相の 力電 ーリング商会の 政界有力者と 高橋 この案に対 気 には調 が英国での 同年三月 組織 後藤新平 1・若槻 査 結局 法則 研究 ے

八名が選出された(72)。 は 商会代表との交渉に備えること。 総辞職すること。 れるので 六月に選出 収した株式証拠金は、 員会が開 ○九年七月一七日に日英共同(株)・ 園田 日本での株式募 設立計画 ・副島・樺山 (日英水力電気が親会社の全額出資で設立されることに かれた(水)。この委員会は、 された日英共同 「の大幅な変更にともない、 ③新たに交渉委員を選出し、 集は行われないことになる)、〇八年七月に 利子を付して応募者に返還すること。 朝吹・近藤・中村・田中常徳・岸 (株)・日英水力電気両社の創立委員は、 などを決定した。 ①株式の募集方法の変更が予想 日英水力電気両社合同の創立 連の対策を講ずるため、 来日するスパーリング なお、 交渉委員に (清一) ②〇八年 な の

の交渉はきわめて難航した。 たこの時 年七月の協 楽観的な見通し(73) スパーリング商会代表のストレー リング商会代表との交渉の経過をまとめたものである。 第4表は、 期の 議会の決定による招請を受けて、 『東洋経済新報』 同年八月から一一月にかけての日本側交渉委員とス ≒新報』の一連の報道でにもかかわらず、実際日英水力電気の設立準備の順調な進展を伝え シーと同行技師のミチェル 同年八月二三日に来日 事前の園 は、〇 \mathbb{H} 九

チェ 手せ にあらざるべしで」との衝撃的な見解を中で日英水力電気の事業計画について、 望と云うを得ず(ワウ)と判断せざるを得ないこと。 貴国 る日本側交渉委員に加えて、 〇九年九月一三日の第一 し報告よりは約四割低廉に動力を発生し得(8) ル て動力を低廉に発生し能う以上は、 は、 (日本…引用者) 来日以降の との衝撃的な見解を表明した何。 連の実地調査をふまえて報告を行ない、 に於ては石炭頗る低廉にして今日迄余等の接 口 ストレーシーとミチェルも出席した。 交渉委員会でには、 「結局失望せりと云うも過言 水力事業の前途必ずしも ②日英水力電気の設 正規のメンバーで 一るのであり、 その理由 は その 石 (1)

立

一が予定より遅延したため、

〇八年に締結した東京鉄道に対する

カ

して非常なる恐怖心を起さしむるに至る⑻」こと。

厳格な付帯条件がつけられており、

「之を英国資本家に示せば彼らを

④「大需用は一馬

③大井川

の

水力利用に関する静岡県お

よび内務省の許可に

は

種々の

が掌中に帰したるものとも云うべ供給契約の有効性に疑問が生じ、

からず@」という状態であること。「東鉄の契約すらも未だ必ずしも我

第4表 日本側交渉委員とスパーリング商会代表との交渉経過 (1909年8月~11月)

77.12	(1909年8月~11月)			
月日	交 渉 経 過			
8. 23	●ストレーシーとミチェル来日。			
9. 13	● 第1回交渉委員会開催。ストレーシーとミチェルも出席。			
10. 1	• 井上邸で、井上、桂、園田、副島、朝吹、ストレーシー、			
	ミチェルら懇談。			
10. 9	• ストレーシーとミチェル、連名で日本側交渉委員に書簡提出。			
10. 12	第2回交渉委員会開催。			
10.14	● 第3回交渉委員会開催。			
	•終了後、帝国ホテルで朝吹、副島、樺山とストレーシー、			
	ミチェルが会談。			
10. 18	●第4回交渉委員会開催。			
10. 20	●井上、園田、近藤が善後策を協議。			
10. 21	●第5回交渉委員会開催。			
10. —	◆ この頃、ストレーシー帰国のため離日。			
10. 28	●第6回交渉委員会開催。			
11. —	●この頃、近藤とミチェルが2度会談。			
	● 会談後、ミチェル帰国のため離日。			
11. 30	● 第7回交渉委員会開催。			

(出典)『日英水力電気株式会社記録』、「水電実査の報告、内山田邸の 会合」(『中外商業新報』1909年10月2日付)

四点であった。 らる、様なれども是大なる誤りなり(83)と言わざるを得ないこと。 で五〇馬力以上の大口電力の供給権を有しているにとどまり、 という状況があるにもかかわらず、 遽かに動 たどり、結局第一回交渉委員会は、他日スパーリング商会代表が要求 の上昇傾向などを指摘して激しく反論した。 社 社は其販路に苦しむの憂あり。 力に付僅少なる価を払い且満期の后急に動力使用を拒絶するときは会 (日英水力電気…引用者)の方針は動力の大需用者のみを目的に 況があるこうハッフ・"、プレーのでは、大なる影響を及ぼさず@||3力使用を拒絶するも会社の収支に大なる影響を及ぼさず@||3方で用を拒絶するも会社の収支に大なる影響を支払い且 ミチェルの報告に対して日本側交渉委員は、 日英水力電気は東京市とその近辺 しかし、 議論は平行線を 石炭価格 「貴会 Ø

事項をまとめて文書で提出することだけを確認して散会した。

では、 委員に提出した一〇月九日付の要求事項をまとめた書簡(86)では、 鉄道は、二万馬力の電力売買契約を締結した似。その結果、 が 0 報酬を三分の 社 ②東京とその周辺での電灯供 ミチェル は多くの水力あるを相感ぜしめ申候(%)」と述べられ、 水力電気の事業計画の問題点が一段と厳しい調子で指摘された。 した新事態を反映して、 電気の東京鉄道に対する電力供給契約は、事実上効力を失った。 報酬として受け取る親会社の払込済み株式については、 水利権の買収費用 口電力供給権の獲得に失敗した場合には、 の所有する水利権の買収、 回 有力な競争会社の存在が新たに問題とされた。ストレー 「生等が東京の送電距 は、 交渉委員会の三日後の九月一六日に、鬼怒川水力電気と東京 書簡の中で、 减 額すること。 を日本側発起人が負担すること。 ストレーシーとミチェルが連名で日本側交渉 ①水力利用許可の付帯条件の大幅な緩和、 などを要求した。そして、 離に於て予測せる結果に依れば他に一又 給権・小口電力供給権の獲得、 ⑤会社設立後五年間は、 日本側発起人が受け取 前記の四点に加 6 ④電灯供給権 競争会社所有 日本側発起人 株価を維持 日英水力 ③競争会 シーと こう そこ 日英

事項に加えた。するため、スパーリング商会が一定の期間保管すること。なども要求するため、スパーリング商会が一定の期間保管すること。なども要求

二点が、確認された。 例えば朝吹は、「如此屈辱的の条件を彼等が出す場合には書面 員会(92)では、 を伝えた側。こうして交渉は決裂状態に陥り、 レーシーとミチェルを訪ね、書簡に対する日本側交渉委員の拒絶 員会の終了後朝吹・副島・樺山の三名は、 えざる以上は事業を中止する方得策なりの」と断じた。 ざるに先って断じて排斥すべし@」と述べ、 実現困難性と④~⑥の屈辱性が、多くの交渉委員によって指摘された。 渉委員会(87)と一四日の第三回交渉委員会(88)では、 発を招いた。一〇月九日付の書簡を受けて開 スパーリング商会代表の一 交渉委員の総辞職と元老の井上を交えた善後策の 連の要求は、 投宿中の帝国ホテル 日 かれた一二日 本側交渉委員の 「彼等が全然心を入れ換 一八日の第四回 要求事項の 第三回 $\widetilde{\textcircled{1}}$ 協議の [交渉委 にスト を認め (3) O 交

で、 任の二点であったが、これらの点は、 行った。 指示 の内容 は全交渉委員の留任と今後の交渉の近藤への一 けた井上は、 から援助を続けていた。 ング商会代表を招いて懇談会を開く@など、交渉の成功のため 井上は、一〇月一日には自邸に いずれも確認された。 あくまで交渉を継続することを求めて、 二〇日に園田と近藤から交渉決裂の報告を受 桂首相、 翌二一日の第五回交渉委員会(※) 日 本側交涉委員、 具体的な指示を ス に側 1 ij

では こでもミチ していた)。この会談は、 ち、二度にわたってミチェルと会談した(ストレーシーは 後スパーリング商会代表と直接接触しないという了解を取りつけ 近藤は、一〇月二八日の第六回交渉委員会して、 |効果的であったが、 ェ ル は、 「不幸にして鬼怒川、 交渉の具体的な進 双方の誤解と感情面でのしこりを取り除く点 吾妻川に及ぶものなしと雖 展には寄与しなかった。 他 の交渉委員は今 すでに たの

与ふべき結果を得ざりしは汗顔の至りなり(9)」と釈明せざるを得なかは、一一月三〇日の第七回交渉委員会(8)の席上、「委員諸氏に満足をた。こうして神戸シンジケートが第二の新提案として持ち出した、スた。こうして神戸シンジケートが第二の新提案として持ち出した、スた。こうして神戸シンジケートが第二の新提案として持ち出した、スた。こうして神戸シンジケートが第二の新提案として持ち出した、ス成を強調した。結局ミチェルは、将来において「再び交渉を開始せん威を強調した。結局ミチェルは、将来において「再び交渉を開始せん威を強調した。結局ミチェルは、将来において「再び交渉を開始せん成を強調した。結局ミチェルは、将来において「再び交渉を開始せんる。

一〇名であった。 第七回交渉委員会では、「兎に角向う一年位権利を留持するの目的第七回交渉委員会では、「兎に角向う一年位権利を留持するの目的第七回交渉委員会でた。 第七回交渉委員会では、「兎に角向う一年位権利を留持するの目的第七回交渉委員会では、「兎に角向う一年位権利を留持するの目的第七回交渉委員会では、「兎に角向う一年の権利を留持するの目的の名であった。

4、鬼怒川水力電気との合同室

って、交渉再開の糸口をつかもうとした。神戸シンジケートは、日本パーリング商会代表が示した要求事項のいくつかを実現することによ日英双方の発起人は会社設立の努力を継続した。日本側発起人は、スに乗り上げた。しかし、〇九年末から一〇年前半にかけての時期には、ったため、日英共同出資による水力電気会社設立の構想はまたも暗礁日本側交渉委員とスパーリング商会代表との直接交渉が失敗に終わ

折衝を続けた⑴の観発起人と連絡をとりつつ、ロンドンにおいてスパーリング商会との

求について、 述べるにいたった。 て余がミチェル氏なりしならば必ず同一の要求を為したるべし の如き要求を為さざる可らず。事業家として尤の事にして地位を代 るゝ処は同業者の競争にあり。 何となれば彼等が水力事業を起し之を東京に遠送するに方って最も恐 交渉失敗後の第七回交渉委員会では、競争会社所有の水利権買収の要 ば、第三回交渉委員会で激しく一〇月九日付の書簡を非難した朝吹は なる要求似」と見なしうる、との新たな評価と結びついていた。獲得・競争会社所有の水利権の買収(前記の①~③)等の条項は 水力利用許可の付帯条件の緩和・東京とその周辺での電灯供給権等の 々に高まった。こうした意見は、 のいくつかを実現して交渉再開に努力する必要がある、との意見が徐 共同出資をめざすのならば、スパーリング商会代表が示した要求事項 た一連の要求のうち屈辱的な条項(前記の④~⑥)は容認できないが 交渉が失敗に終わったのち、 「今退て考る時は、或点に於ては又尤なる要求なりし。 日本側発起人の間では、 故に競争の虞を根絶する為には勢ひ彼 〇九年一〇月九日付の書簡に書かれ (前記の①~③)等の条項は「尤 あくまで日 (104) _ _ _ 例え 英

局の意見に依れば今日東京に三個の電燈会社を置くの必要なし(0)。然供給権等の獲得については、逓信省電気局に対して陳情を行った。常なる同情と破格の取扱を以て当方の要求を全部承諾することに決定常なる同情と破格の取扱を以て当方の要求を全部承諾することに決定常なる同情と破格の取扱を以て当方の要求を全部承諾することに決定常なる同情と破格の取扱を以て当方の要求を全部承諾することに決定の要求事項を実現するために行動した。まず、水力利用許可の付帯条の要求事項を実現するために行動した。まず、水力利用許可の付帯条の要求事項を実現するために行動した。まず、水力利用許可の付帯条の意見に依れば今日東京に三個の電燈会社を置くの必要なし(0)。然にお権等のでは、新聞の、「電話を関係を関係を関係している。」という。

社の脅威を取り除くための具体策として、 力を注ぐことを確認した。 競争会社の脅威だったからである。 商会代表が、 えていた。 で具体的成果を得ることが交渉再開のための不可欠の前提であると考 及ぶべき旨申され は競争会社所有の水利権の買収であったが、 れども他 日其必要を認むる時に於ては第一に先づ我々の願書を詮議に なぜなら、日本側交渉委員との交渉の際に、スパーリング 日英水力電気の計画の問題点としてとくに強調したのは た り (108) 」との部分的成果を得た。 四月四日の創立委員会は、 鬼怒川水力電気との合同に 日本側発起人は、 残された要求事項 競争会 との点

した理 合併を強く希望していた伽。そのため鬼怒川水力電気代表の利光鶴松ていたが、発電力の増強と発電コストの低減のために下流の水利権の Ш 日英水力電気の創立委員会のねらいであった。 気に日英水力電気と鬼怒川水力電気との合同を実現しようというのが はさかんに大田黒に会談を申し入れていたが、 怒川下流の水利権の所有者であったこと。 員の大田黒と久野、 流の水利権を有する鬼怒川水力電気は、会社設立の準備を着々と進め 水力電気が最大の競争会社であったこと。 英水力電気の創立委員会が合同対象として鬼怒川水力電気を選択 生由は、 ①東京鉄道との間に電力売買契約を締結するなど、 およびもと日英共同(株) の二点であった。 ②日英水力電気の創立委 その会談を利用して一 の創立委員の白杉が鬼 鬼怒川 鬼怒 芷

0

怒川 る調査委員会を設け、 に起工すること、 が持ち出 電気が日英水力電気との合同に応ずるよう主張した。日英水力電気側 水電が二十万円を創立費に計上する如 〇年七月に大田黒と利光は、 鬼怒川上流・下流の水利権合併の前提条件として、 した両社合同の条件は、]此点に争議あれば合同会社に関係なき専門家に依 其決定に依り起工の順位を決すべきこと、 「一合同の上は日英水電を第 数回にわたって会談した。 く 日英水電調査費七十一 鬼怒川水力 席上大田 順位

> に過ぎなかった(1)。下流水利権の合併という所期の目的を達した鬼怒下に之を合併せる次第なり(1)」と釈明したが、これは言わば言い逃れで、完以て鬼怒川上下の合同を為せしと雖も其精神に於ては大合同の 円を計上せんこと(110) Ш この契約について大田黒は、七月二 日の日英水力電 月一四日には鬼怒川上流・下流の水利権の合併契約が調印され 期に上流の鬼怒川水力電気の会社設立計画に合流する必要があっ h う弱みがあった。 田黒側には鬼怒川下流の水利権が一〇年一一月で期限切れになるとい 同 このような事情が存在したため、 かった。 せることを主張した。)合同を最終的に拒絶した(1s)(元水力電気は、七月二一日に 消されるが、鬼怒川下流では独自の会社設立の準備は進捗して 条件を拒否するとともに、 従って、大田黒らが引き続き水利権を保持するために 期限内に水力電気会社を設立しなければ水利権は取 大田黒と利光の主張は平行線をたどっ の三点であった。 鬼怒川上流・下流の水利権合併を先行さ (創立委員会の終了後) 会談では結局利光の主張が通 これに対して利光は、 気の創立委員会(112) 日英水力電 れ た (111) 。 b, は、 との合 いな 七 早

失敗を確認するとともに、 一〇年七月二八日の創立委員会(11は、鬼怒川水力電気とのパーリング商会が交渉再開に応ずる可能性はなくなったと H 拡張するという正反対の結果をもたらしただけで、 断念する新方針を決定した。 気との合同交渉は、最大の競争会社である鬼怒川水力電気の水利権 「本側発起人は、 このように競争会社の脅威の除去策として進められた鬼怒川 競争会社の脅威を取り除く展望が失われた以上、 以下で述べるような事実上日英共同出資を 鬼怒川水力電気との合同 、失敗に終わった(116)水力電気の水利権を 判 予断した(117)ス に以上、ス 交渉の 水力 算がとれるよう供給先を静岡県内とすること、などが求められた。 ためには早期に新会社を設立する必要があり、 水利権全体を長期的に保全することをねらったものであった(1)。そのらも事業を開始することによって、日英水力電気の発起人が所有する 見通しが断たれた状況のもとで、 向けに送電せず、 力の水力発電所を建設すること。 を経て継承した榛原郡上川根村奥泉字小山地区の水利権を、 立すること。 応する小規模な水力発電所を建設すること、小規模な発生電力でも採 た。この新方針は、 気の設立を見合わせ、 (の単独出資が可能な小さなものとすること、小さな資本規模に対 に譲渡すること。 年七月二八日 ②日英水力電気は、 静岡県内で販売すること。 の創立委員会で決定された新方針は、①日英水力 日英共同出資による大規模水力電気会社設立の かわりに資本金七五万円の日英共同(株)を設 ③日英水電(株)は、小山地区に出力三千馬 水利権の一部を利用して小規模なが ④日英水電 静岡水力電気事業から日英共同 などを主要な内容として (株)の発生電力は東京 新会社の資本規模は日 日英水電 休

段の引用部分にあるように、 俗称…引用者)の水利権を放棄せられんことを望む(11」と述べた。前るに於てはシンヂケートが日本側と共有する所の牛の頭(小山地区の 於ては、其半額申込の権利を保留す心」とした上で、「若し希望せざ中で、日英水電(株)の出資方法について「倫敦側が希望せらるゝに 者となることはもはやあり得ないことであった。日本側発起人は、 意していたのであり、 合同交渉が失敗した時点で神戸シンジケートは日本からの撤退を決 日 形の上では残されていた。 本側発起人は、 新方針の内容を神戸シンジケートに伝える書簡の 神戸シンジケート 新方針の決定後も日英共同出資の可能 しかし、実際には、鬼怒川水力電気と が日英水電 (株) の共同出資 書 性

> Ł, 水電 ずに、独力で着々と日英水電(株) 現実に日本側発起人は、 の引用部分はいわば形式的な打診に過ぎなかったのであり、 起人が予測した通り神戸シンジケートは、 意 は、 を発送した時にはすでにこのことを察知していた。 などを内容とする回答を行った。 (株)への出資は辞退すること、 日本別といっていた。「ここでは」以下の後段の引用部分にあった仏で若し希望せざるに於ては」以下の後段の引用部分にあった仏であり、書簡の真 〈水電(株)の設立準備を進めた⑵。日本側発打診に対する神戸シンジケートの回答を待た 小山地区の水利権を放棄するこ 一〇年九月二一日に、 書 簡の 中 Ó 日英 前段

は、日本のでは、日

電力供給権(28)外の水利権、小山地区以外の水利権、 電力供給権を獲得した心。日英水電(株)の小山水力発電所はそれぞれ買収し、浜松市・志太郡島田町・榛原郡金谷町等での 早 (一九〇〇馬力弱)であった(28)。なお、日英水力電気の発起に完成し似、その出力は当初の予定より小さい一四〇〇キロ 金は一二〇万円(全額払込済み) た。日英水電 Ш 電力へ売却された(30)と供給権(2)は、長期にわたって保全され、最終的には二一年七月に (株) は、 および東京市とその近辺での五〇馬力以上の 同年七月に浜松電灯を、 日英水電(株)の小山水力発電所は一二年 日英水力電気の発起人所有の 一二月に島田電 ワット 灯を 灯

おわりに

をめざした日英水力電気の構想について、〇六年二月の発端から一〇本稿では、日露戦後期に日英共同出資による大規模電力会社の設立

年一一月の破綻にいたる経緯を検討した。 そ以下の通りである。 その経緯を要約すればおよ

場合には神戸シンジケートが日本での会社設立方式を誤解したことで 集が試みられたが、いずれも失敗に終わった。株式募集が失敗に終わ 側発起人の神戸シンジケートは正式契約を締結した。同年一〇月頃に 筋に定め、 のとして、 表との直接交渉が失敗に終わった結果、同年一一月には暗礁に乗り上げ を行った。 協力を得て日英水力電気の株式の大半を英国で発行するという新提案 三銀行(パース銀行・香港上海銀行・横浜正金銀行ロンドン支店)の に対して、〇九年二月に神戸シンジケートは、 とも大きな影響を与えた。いったん会社設立を断念した日本側発起人 った直接の原因は、日本の場合には金融逼迫に遭遇したこと、英国の とも日英折半出資がめざされ、〇八年七・八月には日英同時に株式募 力電気の二社を日本で設立するという案がまとめられた。当初は両社 は「英国商習慣に依り」、親会社の日英共同(株)と子会社の日英水 しかし、この第二の新提案も、スパーリング 商会代表と日本側発起人代 りに英国で大規模な親会社を設立するという第二の新提案を行った。 たことであった。ただちに神戸シンジケートは、 ることを拒否し、 会社設立のための後押しを強めたが、 カーであるスパーリング商会の協力を得て、 交渉の席上スパーリング商会代表が指摘した日英水力電気の事業 破綻の原因は、 英水力電気の設立構想は、 水利権を獲得した上で、 〇六年二月にスタートした。 両国の技術者が日英水力電気の堰堤築造計画に反対したこ この新提案を受けて日本では桂首相以下の政界有力者が 在ロンドン三銀行が発行銀行に加わることを拒絶し 興銀が単独で日英水力電気の株式の発行銀行とな 「日英同盟の経済版」の意味をもつも 〇七年七月に日本側発起人と英国 結局新提案は同年五月に破綻し 調査の結果開発地点を大井川 興銀および在ロンドン 日英共同 ロンドンの有力ブロ (株)

> 計画 た。 側の単独出資で小規模な日英水電(株)を設立することに方針転換し 12 ング商会との交渉再開に道を開こうと努力した。しかし、一〇年七月 最大の競争会社である鬼怒川水力電気との合同を実現して、スパーリ が厳格すぎること、などの点であった。交渉失敗後日本側発起人は、 ること、電灯供給権を獲得していないこと、水力利用許可の付帯条件 にわたって実現がめざされた日英水力電気の設立構想は最終的に破綻 1.鬼怒川水力電気が合同を拒絶したため、 同年一一月には神戸シンジケートが解散し、ここに、四年九カ月 .の問題点は、競争会社の脅威が大きいこと、石炭価格が低廉であ 以後日本側発起人は、日本

と だ よ う (131)に、 あったのだろうか。この点が、 本的には日本国内で調達された。 の設立構想は、実現にいたらなかった。 い直されなければならない(130))取り止めた。では、なぜ、日本国内での大規模な資金調達が可能で 時期の日本の水力電気事業についてリスクが大きいと判断し、 以上のような経緯を経て、 その発展を支えた資金は、いずれの電力会社の場合にも基 日露戦後期の日本においては水力電気事業が著しい発展を 日英共同出資による大規模水力電 本稿での検討結果をふまえて、 日英水力電気の英国側関係者は、 しかし、すでに冒頭でもふれ 改めて 気会: ح

した。

注

問

を

の

- (1) 藤野正三郎 『日本の景気循環』(寶草書房、一九六五年)六六
- (3)(2)本稿では、電力中央研究所蔵の『日英水力電気株式会社記録』 一尺=〇・三メートル強。従って、三〇〇尺=九〇メートル

(全四一七頁、以下では『記録』と略記する)を基礎資料として利 これ は、 同社の主要な会議の記録等を記した筆写資料であ

る。

- (4)荻野仲三郎 本稿では、 『園田孝吉伝』(一九二六年)二六三~二六四頁。 引用を行う際に旧字体を新字体に改めた。 な
- (5)『東邦電力史』(一九六二年)一八八頁参照。
- 藤崎正太郎「翁と日英水電」(『樺山愛輔翁』、一九五五年) 三五頁!

前掲『園田孝吉伝』二六四頁。

- たため、英国側発起人は米国人水利技師を派遣した。この点につい ては、岸清一「日英水電と英人(上)」(『中外商業新報』一九〇八年 〇月四日付)参照。 当時は水力電気事業に関しては英国より米国の方が先進国であっ
- 真野文二『古市公威』(一九三七年)一八〇~一八一頁参照 前掲『古市公威』一八〇~一八一頁。
- 三一頁、『記録』三七四頁参照。 「大井川水電許可」(『東洋経済新報』一九〇七年二月五日号)
- (12) 号)三一頁参照。 「日英水電創立協議」(『東洋経済新報』一九〇八年六月二五日
- (13) 前掲「日英水電創立協議」三一頁。
- 六月一三日号) 三四頁。 「日英水力電気会社の創立準備」(『東京経済雑誌』一九〇八年
- (15) 家の希望を充たす」ものだったのかは、必ずしも明確でない。 後取株の三種に分かち募集せんとの希望なりしも、日本の法律に依 と交渉を遂げ終に日英共同・日英水力電気両会社を組織し、……… れば種々差支あるより、客年十月英国資本家ハイン氏来朝の際、氏 日号)三八頁には、「英国資本家は同国の慣例により社債・優先株・ (中略)……英国資本家の希望を充たす事とし、」と記述されてい 「日英水力電気会社の創立」(『竜門雑誌』一九〇八年八月二五 しかし、二社並立の方式が具体的にいかなる意味で「英国資本
- 変更願」については静岡県知事と山梨県知事、「水利権譲渡願」に ついては静岡県知事であった。 『記録』三七〇~三七六頁参照。なお、認可したのは、「会社名
- 「日英合同の水力電気許可」(『東洋経済新報』一九〇七年一二

- 月一五日号)三三頁
- (19) (18) 馬力=〇・七五キロワット弱
- 前掲『古市公威』一八三頁参照
- 『記録』三八五~三八六頁参照
- (20) (21)
- **このプランの詳細については、前掲『古市公威』一八一~一八二** 『東京電燈株式会社開業五十年史』(一九三六年)一一五頁参照

頁参照。

- (23) 三一頁参照 「鬼怒川水電工事」(『東京経済雑誌』一九一〇年六月一一日号)
- 社の創立準備」三四頁)が出席した。 英国人ハウル氏、其他富豪・実業家等数氏」(前掲「日英水力電気会 「島津、毛利二公、井上、松方二候、副島伯、三菱、三井各代表者 との種の協議会は○八年五月二九日にも開かれた。その席には、
- 25) 『渋沢栄一伝記資料第一三巻』(一九五七年)四三頁参照
- 26 前掲「日英水力電気会社の創立」三八頁参照
- (27) 前掲「日英水電創立協議」三一頁
- との発起人総会については、『記録』一五~三六頁参照
- 渋沢・朝吹・大倉・大田黒・久野・中村・田中常徳・毛利 (五郎)・ 白杉・小林・セールの九名が、日英水力電気では園田・副島・樺山 大谷・セール・シュルツ・ハウルスの一五名が、それぞれ創立委員 日英共同(株)では園田・副島・樺山・益田(太郎)・岸・木下・
- (30) 『記録』四〇頁参照。

に選出された。

- 日号)三五頁、前掲『園田孝吉伝』二六四頁参照 「日英水力の株式募集」(『東洋経済新報』一九〇八年七月一五
- 沢あての一九〇九年五月一九日付の園田の書簡)参照 『記録』二二頁、前掲『渋沢栄一伝記資料第一三巻』五三頁 (渋
- ては、岸清一「日英水電と英人(下)」(『中外商業新報』|九〇八年 一〇月七日付)によった。なお、『記録』四四頁も参照 〇八年七・八月の英国での株式募集計画が中止された経緯につい

- (34) この意見書の詳細については、 前掲『古市公威』 一八二~一八五
- 前掲『古市公威』一八二頁。
- 『記録』六〇~六三頁参照
- 前掲『古市公威』一八二頁。
- 三二頁参照 「日英水電解散」 (『東洋経済新報』一九〇九年一月一五日号)
- 済新報』一九〇九年二月一五日号) 二六~二七頁参照 日英水力電気常務員副島市松「日英水力電気の真相」 (『東洋経
- 『記録』六七頁。
- 園田の書簡)参照。 伝記資料第一三巻』五一頁 との新提案については、『記録』六七~六九頁、前掲『渋沢栄一 (渋沢あての一九〇九年五月一九日付の
- 『記録』六八~六九頁。
- (43) この発起人総会については、 『記録』六四~七二頁参照。
- (44) 『記録』 一六八頁。
- (45) 『記録』 一六七頁。
- (46) 『記録』 七〇頁。
- なるを以て不成功に終る恐れあるべきを報告し」ていた 該事業に熱心尽力中なる松方、 情を害したるは起債を不成功に終らしめたる一因なり」と述べ、 敦には日本の募債事業を引受くべき一流資本家の団体あるに拘はら 社の英国での株式募集が〇八年に失敗した原因について、 ンに滞在していた若槻礼次郎は、 ⁻帰朝の後其の実情を関係者に伝へて、資金募集の失敗を告げ、又 例えば、 会社側代表者は之れを団体に諮らず他の方面に交渉し、 ○七年四月から○八年七月まで駐英財務官としてロンド 『古市公威』一八五頁)。 井上両老候にも、 日英共同 (株)・日英水力電気両 募集方法の筋違ひ (引用はい 「従来倫 其の感
- 伝記資料第一三巻』五六~六〇頁参照 この協議会については、 『記録』七四~八五頁、 前掲『渋沢栄

- (51) (50) (49) 『記録』七六頁。
 - 『記録』七七頁。
- 『記録』八五頁。
- (53) (52) 発起人総会で、創立委員長に選任された。なお、 この決議の詳細については、 園田は、 かれた日英共同 一伝記資料第一三巻』五八~五九頁参照 創立委員を選出した〇八年六月二七日の日英水力電気の (株)の発起人総会でも創立委員長に選任された。 『記録』八〇~八三頁、 園田は、 前掲『渋沢 同じ日に
- 『記録』八二~八三頁。
- (55) (54) 前の〇八年一一月であった。 面的に竣工したのは、協議会が開かれた〇九年三月のわずか四ヵ月 日本最初の本格的な水力発電所である東京電灯の駒橋発電所が全
- (56)銀行のエーゼントタルに於ては若し此水力事業が他日或は堰堤が破 壊するか又は水路を破壊するか其他故障を生じたるときは英国の株 行となり横浜正金銀行、香上銀行、パース銀行の三銀行が単に興業 と発言し、興銀が単独で発行銀行となることに反対した。 主に対して徳義上の責を負うことになるべし」(『記録』七八頁) この会見については**、**前掲 協議会の席上高橋は、興銀の意向を代弁して「興業銀行が発行 『渋沢栄一伝記資料第一三巻』五〇~
- 録』八六~八七頁参照 Ŧi. 一頁(渋沢あての一九〇九年五月一九日付の園田の書簡)、『記
- (58) 『記録』八六~八七頁。
- (59) 前掲『渋沢栄一伝記資料第一三巻』四四頁参照(
- (60) 月一九日付および二九日付の園田の書簡)参照。 沢栄一伝記資料第一三巻』五四~五五頁 (渋沢あての一九〇九年 この第二の新提案については、 『記録』八七~九五頁、 前掲『渋
- を発行することになっていた。この点については、 五月二一日の提案では、親会社はまず社債を発行し、その後株式 『記録』九四頁

(61)

前掲『渋沢栄一伝記資料第一三巻』五二頁 (渋沢あての一九〇九

五月一九日付の園田の書簡)

- 年五月一九日付の園田の書簡) 前掲『渋沢栄一伝記資料第一三巻』五二頁(渋沢あての一九〇九
- ロンドン支店・同行秘書の独自調査の三ルートを通じて調査した。 の調査については、『記録』八八~八九頁参照。 園田は、スパーリング商会について、パース銀行・横浜正金銀行
- 前掲『渋沢栄一伝記資料第一三巻』五六頁(渋沢あての一九〇九 五月二九日付の園田の書簡)
- (66)この協議会については、『記録』八五

 一一三頁参照
- (67) 『記録』九九頁。
- 『記録』一〇八~一〇九頁
- (69) (68) 『記録』一〇九頁。
- (70) 一四頁参照。 「日英水電の経過」(『東洋経済新報』一九〇九年七月一五日号)
- との創立委員会については、『記録』

 一一四

 一二四頁参照
- 『記録』二四一頁参照
- (73) 年八月一四日号)一〇~一一頁参照。 園田孝吉「日英水力電気事業に就て」(『東京経済雑誌』一九〇九
- 三三頁、「日英水電設計」(『東洋経済新報』一九〇九年一〇月五 .号)四〇頁、「日英水電の好望」(『東洋経済新報』一九〇九年 「日英水電認可」 (『東洋経済新報』一九〇九年九月二五日号) 月一五日号)三四頁参照。
- (76)第一回交渉委員会については、『記録』一二四~一五〇頁参照。 『記録』一三三頁。
- 非常に高価なること、工業が非常に発達して需要多大なる事、是等 の誘引物の中一二は必ず具備せることを要す。然るに日本の水力事 るを以て既往の経験に基き論ずる中は、大凡水力事業には何等かの [かきこと、政府が出地を無償にて払下ぐること石炭が粗悪にして -殊の誘引物、例へば土木工事が非常に低廉なること送電線の甚だ 報告の中でミチェルは、 「余等世界各地に於て水力事業を起した

業に就ては右誘引物の一例も発見する事能はず」(『記録』一三二 一三三頁)と決めつけた。

- 『記録』一二八~一二九頁。
- (79) (78) 『記録』一三二頁。
- (80)

『記録』一三三頁

- (83) (82) (81) 『記録』一四四頁
 - 『記録』一四七頁
- 『記録』一四六頁
- (84) 月二五日号)三三~三四頁参照 「鬼怒川水電の東鉄供電契約」 (『東洋経済新報』 一九〇九年九
- (85) との書簡については、『記録』 一五五~一六八頁参照
- (86) 『記録』一六二頁。
- (88) (87) 第三回交渉委員会については、『記録』一六八~一八〇頁参照 第二回交渉委員会については、 『記録』一五〇~一五五頁参照
- (89) 『記録』一七三頁。
- 『記録』一七九頁。
- (91) (90) **との会見については、『記録』一八一~一九七頁参照**
- (92)第四回交渉委員会については、『記録』一九七~一九九頁参照
- (93) 一〇月二日付)参照 「水電実査の報告、内山田邸の会合」(『中外商業新報』一九〇九
- (95) (94)第五回交渉委員会については、 第六回交渉委員会については、『記録』二〇〇~二一二頁参照 『記録』一九九~二〇〇頁参照
- 『記録』二一八頁。
- 第七回交渉委員会については、 『記録』二二二頁 『記録』二一二~二三七頁参照
- 『記録』二二五頁。
- 『記録』二二八~二二九頁。 朝吹の発言の一部
- 『記録』二三四頁
- (103)(102)(101)(100) (99) (98) (97) (96) 同時に神戸シンジケートは、 この発起人総会については、 スパーリング商会以外のブローカー 『記録』二三七~二五〇頁参照

中から新たなパートナーを捜そうとしたが、成功しなかった。

『記録』二二七~二二八頁

この創立委員会については、『記録』

二五〇~二七五頁参照 『記録』二五五頁。

鉄道の二社であった。

(107)(106)(105) (104) 当時東京において電灯供給権を有していたのは、東京電灯と東京

『記録』二五六頁。

日号)三三頁によれば、鬼怒川水力電気は下流の水利権を合併した 結果、五千馬力の発電力増強と一三%の発電コスト低減を達成した。 「水電合同問題」(『東京経済雑誌』一九一〇年七月三〇日号) 「鬼怒川水電の設計変更」(『東洋経済新報』一九一〇年九月二五

日号) 三三頁参照。 「鬼怒川水利権の合併」(『東洋経済新報』一九一〇年七月二五

(114)(113)(112) との創立委員会については、『記録』二八七<三○二頁参照。 『記録』二八九~二九〇頁

(115) 日英水力電気の利害に反する行動をとったと言うことができよう。 「水電合同問題」二九~三〇頁、『記録』三〇三~三〇五頁によっ 鬼怒川水力電気との合同交渉が失敗した経緯については、前掲 大田黒は、結果的には、鬼怒川下流の水利権を保持するために、

鬼怒川水力電気は、一〇年一〇月一日に創立総会を開き、一〇月 日に会社設立登記を完了した。

で来るべし」(『記録』二六九頁)と述べた。 の曾て心配したる競争者の現出皆無となるを以て彼等も大いに進ん 録』二六六頁)と述べ、園田は「合同さえすればスパーリング商会 通りに為るを以てスパーリングも再び大いに進んで来るべし」(『記 日の創立委員会で、副島は「合同さえ出来れば総てミチェルの希望 商会は再交渉に応ずるだろうと考えていた。例えば、一〇年四月四 日本側発起人は、鬼怒川水電との合同が実現すればスパーリング

> の中で、「左すれば大計画の水利権(小山地区以外の水利権…引用 者)は無期間に保持することを得べし」(『記録』三〇八頁)と述 日本側発起人は、新方針の内容を神戸シンジケートに伝える書簡 との創立委員会については、『記録』三〇二~三〇八頁参照。

『記録』三〇七頁

『記録』三〇七~三〇八頁

らず共同事業とするときは双方の間に万事交渉の上決定する面倒あ 三二頁には、「日英水電会社にては愈々小規模にて企業するに決し を得たる」と記述されている。 ればとて小規模企業地に対し外人側の権利放棄を求めたるに其快諾 たるも小規模の企業にては敢て日英共同の大資本を要せざるのみな 「日英水電の計画」(『東洋経済新報』一九一〇年一一月五日号)

を開始した。 山水力発電所の工事予算書を作成し、静岡県内の電灯会社との交渉 日本側発起人は、神戸シンジケートからの回答が届く以前に、 小

録六九頁参照 中柄正一『日露戦後株界活躍史』(株式調査会、一九一七年) 附

前掲「翁と日英水電」三六頁参照

逓信省電気局『第八回電気事業要覧』(一九一六年)四二~四三

年表一〇頁参照。 電気学会・日本電気協会『発展初期の電力技術』(一九六〇年)

前掲『発展初期の電力技術』三四頁参照

発起人だけとなった。 合併し、二五年三月に東京電力として新発足した。日英水力電気の 神戸シンジケートの解散以後、これらの諸権利の所有者は日本側 前掲『東邦電力史』一八八頁参照。早川電力はその後群馬電力と

出の大きな武器となった。 発起人から継承した諸権利は、

東邦電力の子会社東京電力の東京准

力』(東洋経済新報社、一九六五年)二〇六頁参照。を凌駕した。この点については、南亮進『長期経済統計12鉄道と電電方式を転換した。その結果一一年には、水力発電力が火力発電力の電灯会社も、火力発電から水力発電へ発

資金調達」の中で立ち入って論ずる予定である。 (32) この点については、準備中の別稿「日本における電力業の勃興と

(二八頁より)

大正三年十月三十日 精神病者縊死

を吊し縊死を遂げたりと。 が去る二十七日午後四時頃監置室内天井張りの僅かの隙間より兵児帯が去る二十七日午後四時頃監置室内天井張りの僅かの隙間より兵児帯東松浦郡北波多村大字岸山芳谷炭坑川××吉(35)は精神病者なる

大正三年十一月二十日 試掘許可

石炭)五六万坪の試掘願は許可されたり。 ------東京市四谷区愛住町横山源太郎外一人の西松浦郡大川村地内

大正三年十一月二十二日 車夫の卒倒

仰向に打倒れ絶命せりと。駅に着したるが暫くにして構内便所側に至り心臓麻痺のために卒倒し部より山本停車場まで客を乗せ人力車を馳せたるが老体のこととて同東松浦郡相知村牟田部横尾嘉助(62)は去る十九日午前十時頃牟田

大正三年十一月二十五日 炭車に圧殺さる

大正三年十一月三十日 山東の炭坑引受切断したる為め急速に墜落したより避難する暇なく遂に圧殺されしと。本坑口を距る一一〇〇間位のケ所に於て炭車を捲上げおりし綱が突然杵島郡福富村紀伊達三(16)は去る二十一日午後一時半頃杵島炭坑

其筋と打合の上山東省に往き博山坊子其他の炭坑を視察し青島に入る九州砿業家貝島健次郎氏天津唐山炭坑を視察し北京に赴きたるが、

「日守炭山朱式会社経営の対長プカナ、炭亢料亢ニナ、ヨF炎三寺がえ大正三年十一月三十日(石狩り炭坑爆発)生死不明三〇〇名(由なり、氏は山東の某炭坑経営を引受くるに至るべしと伝ふ。

り。爆発をなせるワカナベ炭坑は登川の鹿谷地方より約三里、夕張市爆発し坑口を密閉せり、坑内従業者約五○○名あり、生死尚ほ不明な石狩炭山株式会社経営の夕張ワカナベ炭坑斜坑二十八日午後三時ガス

(九八真へ続く)